

テロ対策 security measures

[簡単に]

原子力施設を標的としたテロへの防護対策

(「テロ対策」は一般用語であるが、今後、原子力発電においても大きく取り上げられる可能性があるため、原子力関連用語として取り上げている)

[詳しく]

原子力発電所等の施設内で保管されている核物質が盗まれないよう、施設が破壊されないよう、外部からの様々な行為を想定して防護措置を講じることです。もちろん、テロのような事態にならないよう、警備体制の強化はさることながら、政府による国家規模の外交的かつ政治的な努力が重要であることは言うまでもありません。

原子力事業者として行うべきこととしては、監視カメラや防護フェンスの設置、金属探知器による持ち込み品の検査、IDカードによるチェックなどの防護措置が該当します。また、事業者が行っている防護措置がきちんとなされているか、国による定期的な検査も受けています。

特に、米国における同時多発テロ(2001.9.11)以降、原子力発電所においては、出入り管理強化やパトロール回数の増加、警察庁や海上保安庁などの治安当局との連携強化などにも取り組んでいます。

[角度を変えて]

原子力事業を進めていくうえでは、基本的にはすべての情報を公開することになっていきますが、核物質防護という観点から、そうできない部分もあります。窃盗やテロ対策のために、防護方法の情報が公にならないよう、きちんと管理しなければなりません。

また、福島第一原子力発電所事故は、テロ行為によって、全電源喪失と冷却水系の機能喪失などの深刻な事態を引き起こされる可能性を示しています。このため、安全面のみならずセキュリティ面においても、原子力発電所が強化すべき防護対策を取りまとめ、国際社会と共有し、核セキュリティの強化に向けた国際的取組に反映させていかなければなりません。例えば、これまでは、核物質が収容されている設備へのテロ行為を主に想定した防護措置を講じてきましたが、全電源の喪失、原子炉圧力容器や使用済燃料プールの冷却機能の喪失を防ぐことも重要であり、これらに関する設備防護の強化が求められます。

[わかりやすく伝えるポイント]

一般的なテロ対策まで話を広げずに、原子力の内容に限って説明する方が、イメージをつかんでもらえやすい。

[関連語]

- 核物質 → 原子力基本法に規定する核燃料物質及び核原料物質をいう。「核燃料物質」とは、ウラン、トリウム等の物質を指す。「核原料物質」とは、ウラン鉱、トリウム鉱その他核燃料物質の原料となる物質を指す。
- 核物質防護 → 核物質を盗もうとする者や、原子力施設を破壊しようとする者から核物質や施設を守ること。

【参考文献】

- 1) 東京電力, 原子力発電所はテロが起きても大丈夫ですか?
(<http://www.tepco.co.jp/nu/qa/qa12-j.html>)
- 2) 原子力安全・保安院, 平成23年度 核物質防護検査の結果について 平成24年6月19日
(<http://www.aec.go.jp/jicst/NC/iinkai/teirei/siryo2012/siryo25/siryol-1.pdf>)
- 3) 福島第一原子力発電所事故を踏まえた課題への対応
(<http://www.aec.go.jp/jicst/NC/iinkai/teirei/siryo2012/siryo10/siryol-1.pdf>)
- 4) 日本原子力研究開発機構 核物質管理科学技術推進部, 核物質防護とは
(http://www.jaea.go.jp/04/np/archive/pp_is/)